



2023年度

Life is good!

と思えているか？

中央執行委員長
大淵 光晴

Life is good! 直訳すると『人生は素晴らしい!』という意味です。「あなたは Life is good と思えていますか?」と問われたとき、悩んでしまう、または思っていないと答える人は多いのではないのでしょうか? 私たちは進学、就職、結婚、引っ越しなど、自分の人生を決める大事な選択を繰り返す中で、自らの意志でヤナセで働くことを選択しました。従って、ヤナセで働くことを通じて『人生は素晴らしい!』と思えることは、幸せな状態と言えます。労働組合が組合員一人ひとりの人生に深く入り込むことはできませんが、一人ひとりがヤナセで働くことを選んで良かったと思えるようサポートをすることはできます。これまでヤナセ労働組合は処遇の向上や各種制度の充実に向けた会社との交渉、福利厚生などの活動を通じて組合員の幸せを実現するための活動を行ってきました。しかし、近年ではこういった活動の目的が、溢れかえるあらゆる情報の下に埋もれて見えづらくなっているように感じます。その中で、改めて労働組合が活動する目的を考えたときに、再度原点に立ち返り、これまで行ってきた組合員の幸せを実現するための活動に焦点を当てることで、活動の目的を常に見える位置に掲げておく必要があると考えました。

そこで、2023年度の組合活動は『Life is good!』をスローガンに掲げ、組合員が「素晴らしい人生を歩めている」と思える状態を目指します。人生は素晴らしいものだと思いつけたいわけではなく、組合員が自分の人生を振り返ったとき、ヤナセで働けている今を心から幸せだと思える状態を目指して活動します。ここで大切なのは、一人ひとりが自分のことはもちろん、ともに働く仲間の人生を自分のことのように考えることです。なぜなら、仲間の幸せ無くして自分の幸せは成り立たないからです。縁あってヤナセで一緒に働いている仲間の幸せを願えることが、自分の幸せの第一歩と考えます。仲間の幸せを理解するためにはよく話し合っ、互いの考えを共有し、現状を正しく理解する必要があります。その上で、自分たちの人生をより良いものにしていくためにはどのような行動が必要かを深く考え実行することで、人間関係を築かなくてはなりません。そのために、次頁以降の活動の軸を実行する1年にいたしますので、組合活動へのご理解とご協力、ご参画をお願い申し上げます。

～実りの多い豊かな人生を～

2023年度の組合活動は、労働条件や処遇に関する会社との交渉は従来通り行いながら、組合員とその家族の人生が実りの多い豊かなものとなるようサポートします。

ここで言う豊かさとは、物質的なものではなく人生感の深みや広さを意味します。例えば、幸せや多様性を受け入れるということについて日常生活の中で考える時間は少ないと思います。しかし、多様性が声高に叫ばれる現代を生きていく上で、素晴らしいと思える人生を送るためには自分なりの幸せについて深く考えることが重要です。

そのために、ヤナセで働く会社員としての人生のみならず、自分の人生そのものも考える以下3点の活動を行います。



職場の全員で自分たちの職場環境や働き方を話し合う活動

自分の職場がどのような状態であるのかを客観的に捉えるために「職場のチーム力調査」を実施します。

その上で、自分たちの考える理想の職場と現状のギャップや、理想の職場を実現するための具体策などを職場の全員で主体的に考え、職場を良くしていくための話し合いの場をつくりまします。人生の中で多くの時間を過ごす職場での時間が充実すれば、人生の豊かさは格段に増すと考えます。

日常生活に役立つ知識と 気づきを得るための活動

人生に於いて、職場での時間とともにプライベートの充実は重要です。そこで、私生活に役立つセミナーや世の中の動向を幅広く学べるセミナーの他、異業種交流の機会をつくります。私生活に役立つセミナーは、育児や介護の他、健康や片付けなどをテーマに開催します。異業種交流については、私たちが勤めているヤナセが社会的にどのような役割を担っているのかを知るための機会として設けます。これらの機会によって、ヤナセで働くことへの誇りや、自分が何を目的に業務にあたるかを考えることができるようになりますと考えます。



組合員が安心して ヤナセで働き続けようと思える 労働環境、処遇を維持改善する活動



近年、世間では働き方の多様化が勢いを増しています。ヤナセでも必要に応じてその都度制度を変更していますが、現場の理解が追いついていない、制度を利用できていない実態が垣間見えます。この現状を解消するために制度を学ぶ時間を各種委員会に取り入れ、更に、職場の仲間同士の協力体制を築いていくための話し合いの機会をつくります。

また、日本では物価上昇の一方、会社員の平均年収の上昇が伴っていないなどの世間の状況や、近年のヤナセの経営状況の変化などを考慮し、積極的に処遇の向上を目指します。